

## 第 25 期横浜市スポーツ推進審議会 第 2 回会議

日時 令和 2 年 11 月 30 日 (月) 18 時 15 分～

場所 横浜市役所新市庁舎 18 階 さくら 14

### - 次第 -

- 1 開会
- 2 定足数確認
- 3 市民局スポーツ振興部長あいさつ
- 4 議題  
「体力アップよこはま 2020 プラン・子どもの体力向上プログラム」の改訂について
- 5 報告事項
  - (1) 横浜スポーツパートナーズについて
  - (2) 横浜市のスポーツ施設のあり方の検討について
- 6 その他
- 7 閉会

### <配付資料>

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 席次表
- ・ 第 1 回会議議事録
- ・ 【資料 1】「体力アップよこはま 2020 プラン・子どもの体力向上プログラム」の改訂について
- ・ 【資料 2】 横浜スポーツパートナーズについて
- ・ 【参考資料】 キヤノンイーグルス ホストエリア横浜市決定について
- ・ 【資料 3】 横浜市のスポーツ施設のあり方の検討について

第25期横浜市スポーツ推進審議会委員名簿

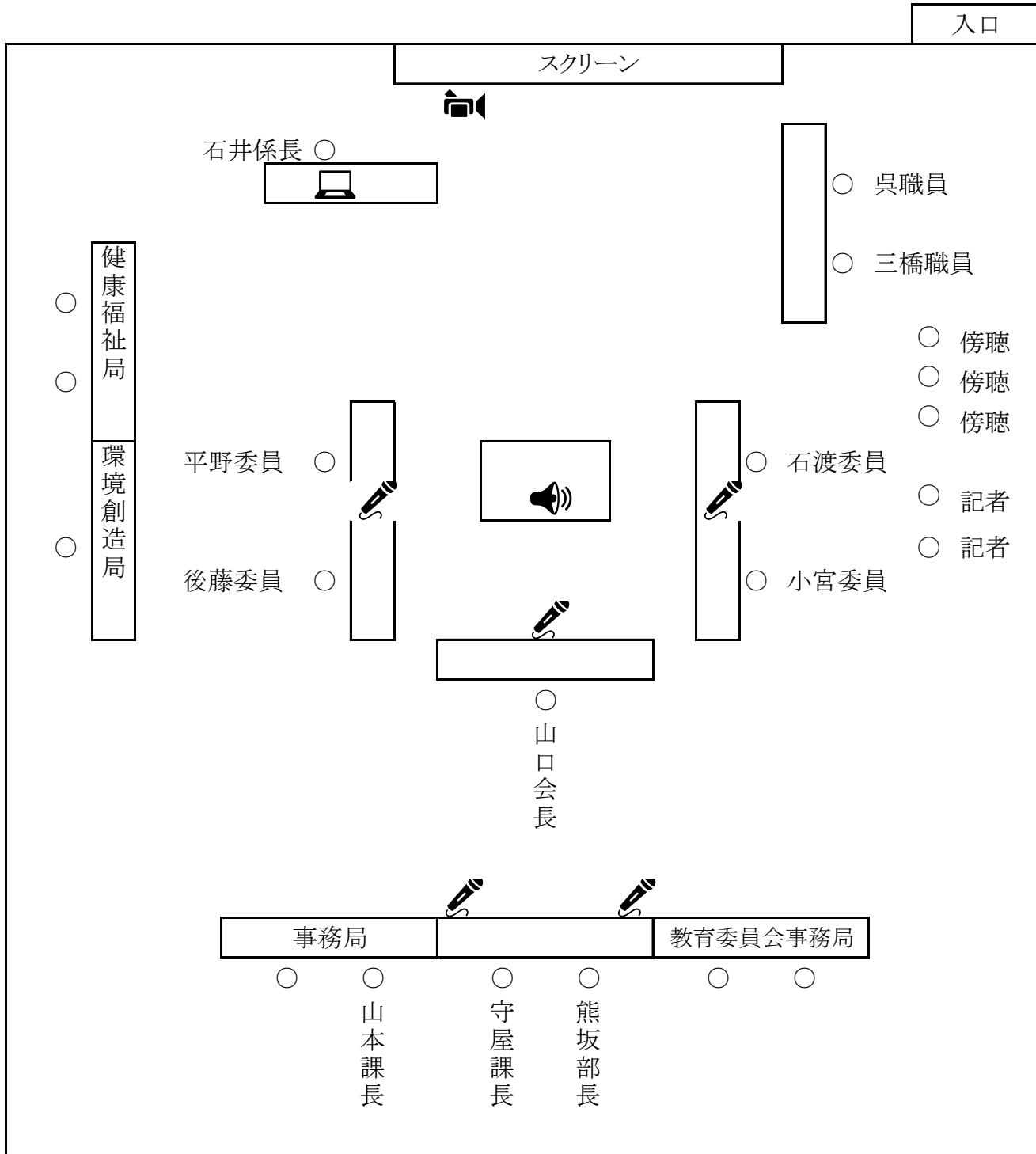
(敬称略・五十音順)

	氏 名	役 職 名
1	石黒 えみ	亜細亜大学経営学部准教授
2	石渡 元	横浜市中学校体育連盟会長 (横浜市立大正中学校校長)
3	小熊 祐子	慶應義塾大学スポーツ医学研究センター准教授
4	小田 治男	一般社団法人横浜市医師会横浜スポーツ医会会長
5	大日方 邦子	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会会長
6	後藤 薫	横浜市スポーツ推進委員連絡協議会会長
7	小宮 寛之	横浜市立小学校体育研究会会長 (横浜市立宮谷小学校校長)
8	佐々木 玲子	慶応義塾大学体育研究所教授
9	萩 裕美子	東海大学大学院体育学研究科長、体育学部教授
10	平野 裕一	法政大学スポーツ健康学部長
11	宮嶋 泰子	一般社団法人カルティベータ代表理事 スポーツ文化ジャーナリスト
12	山口 宏	公益財団法人横浜市スポーツ協会会長
13	ヨーコ・ ゼッターランド	公益財団法人日本スポーツ協会常務理事

(任期：第1回審議会から2年間)

# 第25期スポーツ推進審議会第2回

令和2年11月30日(月) 18時15分～  
横浜市役所新市庁舎18階 さくら14



# 第25期横浜市スポーツ推進審議会第1回会議

令和2年8月4日（火）

横浜武道館 多目的室

## 1 開会

○熊坂部長 それでは定刻になりましたので、ただいまから第25期横浜市スポーツ推進審議会第1回会議を始めさせていただきます。初めに私でございますが、この4月から市民局スポーツ振興部長に着任いたしました熊坂でございます。よろしくお願いいたします。また、こちらの会場にいらっしゃる方へのご案内ですけれども、施設利用の関係で制限がございまして、使用時に開放して使うことということで、密閉にならないように全ての扉を開けさせていただいております。あと、入り口で手指消毒等にご協力いただいておりますが、引き続きよろしくお願いいたします。この後は着座で進めさせていただきます。

改めまして、このたびは第25期の横浜市スポーツ推進審議会委員をお受けいただきまして、本当にありがとうございます。委嘱状につきましては、大変略儀で申し訳ございませんが、席の上に置かせていただいております。また、リモートでご参加いただいている委員の皆様方、本来でしたら今日お渡しする予定でございましたが、今郵送でお送りさせていただいておりますので、お手元に届きましたらご確認いただければと思います。よろしくお願いいたします。委員の任期は、委嘱状に書かせていただいておりますけれども、本日から2年間と長きにわたっての委嘱となっておりますが、お付き合いいただければと思います。また、後ほど皆様の中から会長、副会長を互選していただく形になりますが、それまでの間、私のほうで進行させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

改めまして、本審議会はスポーツ基本法第31条及び横浜市スポーツ推進審議会条例第1条の規定に基づき設置されております。横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条の規定に基づき公開の対象ともなっております。そのため、議事録についても閲覧の対象となりますことをご了承くださいませ。なお、傍聴につきましても事前受付させていただきましたが、本日は傍聴の希望がございませんでしたので、その旨ご報告させていただきます。また、作成しました議事録の署名人につきましては、横浜市スポーツ推進審議会会議運営要領第5条第3項の規定により、後ほどご選出いただきたく存じます。

## 2 定足数

○熊坂部長 それでは改めまして、お手元の次第に沿って、進めさせていただきます。まず2の定足数確認でございます。本日は委員総数13名のところ、画面にも出ていただいておりますけれども、リモートでご出席いただいた委員の方々が7名様、また本日お暑い中こちらにお集まりいただきました方が5名ということで、12名の委員の皆様方にご参加いただいております。ありがとうございます。条例第6条第2項に基づき定足数を満たして

おりますことをご報告させていただきます。

### 3 委員紹介

○熊坂部長 次に第3、委員紹介でございます。本日は第1回会議でございますので、ご出席いただいている委員の皆様のご紹介をさせていただきたいと思っております。できれば一言ずつ自己紹介の形で進めさせていただければと思っております。それではまず、会場にいらっしゃる石渡委員から一言ご挨拶を頂ければと思っております。よろしくお願いいたします。

○石渡委員 皆様、こんにちは。横浜市中学校体育連盟で会長をしております、大正中学校校長の石渡と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○熊坂部長 それでは小宮委員、よろしくお願いいたします。

○小宮委員 皆さん、こんにちは。横浜市立小学校体育研究会の会長をしております、横浜市立宮谷小学校校長の小宮と申します。よろしくお願いいたします。

○熊坂部長 ありがとうございます。続きまして、後藤委員、お願いできますでしょうか。

○後藤委員 皆さん、こんにちは。横浜市スポーツ推進委員連絡協議会会長の後藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○熊坂部長 ありがとうございます。続きまして、平野委員、よろしくお願いいたします。

○平野委員 法政大学スポーツ健康学部の平野でございます。よろしくお願いいたします。

○熊坂部長 ありがとうございます。引き続きまして、山口委員、よろしくお願いいたします。

○山口委員 この4月1日に名称変更いたしました公益財団法人横浜市スポーツ協会会長の山口でございます。よろしくお願いいたします。

○熊坂部長 ありがとうございます。リモートで参加されている方、すみません。なかなかお顔が見えなかったかもしれませんが、こちらからは皆様のお顔がよく見えておりますので、この後リモート参加の皆様方のご挨拶をお願いしたいと思います。では、まず石黒委員、お願いできますでしょうか。

○石黒委員 初めまして。亜細亜大学の石黒と申します。本日はリモートで失礼させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○熊坂部長 ありがとうございます。引き続きまして、小熊委員、お願いできますでしょうか。

○小熊委員 慶應義塾大学スポーツ医学研究センターの小熊と申します。よろしくお願いいたします。

○熊坂部長 ありがとうございます。引き続きまして、大日方委員、お願いできますでしょうか。

○大日方委員 日本パラリンピアンズ協会の大日方邦子です。どうぞよろしくお願いいたします。

す。

○熊坂部長 ありがとうございます。続きまして、佐々木委員、お願いいたします。

○佐々木委員 慶應義塾大学体育研究所の佐々木と申します。よろしくをお願いいたします。

○熊坂部長 ありがとうございます。続きまして、萩委員、お願いできますでしょうか。

○萩委員 東海大学の萩裕美子と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

○熊坂部長 ありがとうございます。宮嶋委員、お願いできますでしょうか。

○宮嶋委員 1月にテレビ朝日を退職いたしました。今はスポーツ文化ジャーナリストとして活動しております。一般社団法人カルティベータを2月につくりまして、その代表をしております。どうぞよろしくをお願いいたします。

○熊坂部長 ありがとうございます。それでは、ゼッターランド委員、お願いします。

○ゼッターランド委員 皆様、こんにちは。リモートから失礼いたします。日本女子体育大学体育学部健康スポーツ学科のゼッターランドと申します。よろしくをお願いいたします。

○熊坂部長 ありがとうございます。お手元に委員名簿がございますが、本日はご都合により小田委員がご欠席とのご連絡を頂いております。よろしくをお願いいたします。

#### 4 市民局長あいさつ

○熊坂部長 それではこの後開会となりますが、それに先立ちまして、市民局長の石内よりご挨拶を申し上げさせていただきます。

○石内局長 皆さん、こんにちは。市民局長の石内と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。冒頭で簡単に一言ご挨拶をさせていただきます。まず本日は大変お忙しい中、第25期横浜市スポーツ推進審議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。第25期につきましては、第24期に引き続き委員をお引き受けいただいた方も多いですが、公私にお忙しい中、この審議会委員をお引き受けいただいたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございます。昨年の横浜市のラグビーワールドカップの盛り上がりがあるような、遠い過去のようにすけれども、今のコロナ禍の中での横浜市のスポーツ関係の状況を少し報告させていただきます。

先だって緊急事態宣言が出されていたときは、この横浜文化体育館、あるいは国際プール、市内18区にありますスポーツセンター等を含めて、感染拡大防止という観点から一時休館という措置を取っておりました。また、イベントなどにつきましても、秋の横浜マラソン、5月に行われる予定だった世界トライアスロンなども全て中止というような状況になっています。緊急事態宣言解除後は徐々にプロ野球やJリーグも無観客で試合が始まりという状況になってきています。ただ、ここへ来ましてまた東京都、全国的に感染者数が増えている中で、横浜市も相当緊急事態宣言の前以上に感染者が増えているという状況になっています。とりわけ18区の中でも東京と鉄道でつながっている青葉区、港北区、鶴見

区、この辺りの感染者が増えています。あと、集団感染が発生した関係で、旭区で一番感染者が多く発生している状況がございます。

こういう中で、これから25期の委員の皆様には、恐らくこの任期の中で一番大きなお仕事としてお願いするのは、現在、スポーツ振興の基になっております横浜市のスポーツ推進計画の策定に関して、今までの社会状況ですとか、あるいは経済情勢と全く異なる中で、横浜市のスポーツ行政をどう進めていくか、スポーツ振興をどう進めていくかという計画のつくり上げになりますので、それぞれ委員の皆様の様々な専門的なお立場の中で、忌憚のないご意見を頂いて、この計画をつくり上げていただく上でのご指導・ご助言を賜れば本当にありがたいなと思っています。西山スポーツ統括室長がスポーツ行政にずっと関わっている中で、オリンピックで試合だと思ったらオリンピックが延期になってしまったので、本人も定年を再々延長しながら頑張っています。横浜市のスポーツ行政のためにぜひ委員の皆様も本当にお忙しい中だと思いますけれども、引き続きご指導・ご助言を賜ればありがたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

## 5 スポーツ統括室職員紹介

○熊坂部長 続きまして、本日出席をしております事務局の職員紹介をさせていただければと思います。スポーツ統括室長の西山でございます。

○西山室長 スポーツ統括室長の西山です。よろしくお願いいたします。

○熊坂部長 スポーツ振興課長の守屋でございます。

○守屋課長 スポーツ振興課長の守屋です。よろしくお願いいたします。

○熊坂部長 担当係長の石井でございます。

○石井係長 よろしくよろしくお願いいたします。

○熊坂部長 担当職員の呉でございます。

○呉職員 よろしく申し上げます。

○熊坂部長 同じく職員の三橋でございます。

○三橋職員 よろしく申し上げます。

○熊坂部長 時間の関係でご紹介は割愛させていただきますけれども、本日はこのほかに教育委員会事務局、健康福祉局、環境創造局、横浜市スポーツ協会の皆様にもご出席賜っておりますので、ご報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

## 6 議題

### (1) 会長・副会長の選出



○熊坂部長 それでは、引き続き議題に入らせていただきたいと思います。まず最初に会長・副会長の選出をさせていただければと思います。条例第5条第2項の規定に基づきまして、委員の皆様の互選によりお決めいただきたく存じます。どなたかご推挙、もしくは自薦・他薦で何かご意見がございましたら頂戴できればと思います。いかがでしょうか。よろしくお願ひします。

○後藤委員 前期の審議会に引き続いて、会長は山口委員、副会長は宮嶋委員にお願いしたらいかがでしょうか。

○熊坂部長 後藤委員、ありがとうございます。ただいま会長に山口委員、副会長に宮嶋委員とのご提案がありました、皆様、いかがでしょうか。

(異議なし)

○熊坂部長 拍手が聞こえております。皆さん、ありがとうございます。リモートならではのすてきな拍手をありがとうございます。異議なしということでございますので、会長は山口委員、副会長は宮嶋委員にお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

それでは、これからの議事進行につきましては、選出されました山口会長にお願いしたいと思ひます。会長はお席をお移りいただきまして、一言ご挨拶を頂戴できればと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○山口会長 前期に引き続きまして会長職を拝命させていただきました、横浜市スポーツ協会会長の山口でございます。微力ではございますけれども、引き続き一生懸命努めさせていただきますと思ひておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○熊坂部長 引き続きまして、宮嶋副会長、ご挨拶いただけますでしょうか。よろしくお願ひいたします。

○宮嶋副会長 山口会長をサポートし、会がきちんと進んでいくように尽力したいと思います。よろしくお願ひいたします。

○熊坂部長 それでは、この後の進行は山口会長にお願いしたいと思ひます。

○山口会長 ありがとうございます。それでは、早速ですけれども進めさせていただきます。本日の会議の議事録署名人についてでございます。前回同様、お手元の委員名簿の順で2名を指名させていただくことにしたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○山口会長 それでは、本日の議事録署名人は、石黒委員と石渡委員にお願いいたします。

## (2) 諮問

○山口会長 続きまして、当審議会への諮問につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○守屋課長 事務局から説明をさせていただきます。皆様のお手元に今回の諮問文の写し

はございますでしょうか。そちらの裏面に今回の諮問理由を書いておりますので、そちらを読み上げさせていただきます。

本市では、子供から高齢者まで市民の誰もが健康で心豊かな生活を送ることができる生涯スポーツ社会の実現を目指し、平成25年3月に「横浜市スポーツ推進計画」を策定しました。本計画では、スポーツを「する・みる・ささえる」の観点から、子供の体力向上方策の推進、地域スポーツの振興、高齢者スポーツの推進、トップスポーツとの連携・協働の推進の4つの目標を掲げ、スポーツ振興施策の着実な推進に向け取り組んでまいりました。また、平成30年3月に、計画の中間見直しを行い、スポーツ推進の意義に「共生社会の実現」を加え、障害者のスポーツ実施率の目標値を設定しました。ラグビーワールドカップ2019が成功裏に幕を閉じ、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が待たれます。相次いで開催される世界的なスポーツイベントによる、市民のスポーツに対する関心の高まりを一過性のものとせず、大会のレガシーとして、本市におけるスポーツの環境づくりを検討する必要があります。「横浜市スポーツ推進計画」は、令和3年度で計画期間満了となりますが、「子供の健全育成」、「健康づくり」、「地域コミュニティの活性化」、「地域経済の活性化」及び「共生社会の実現」といったスポーツ推進によってもたらされる効果を最大限に生かして、スポーツを「する・みる・ささえる」環境づくりを進めていく必要があります。ついては、次期スポーツ推進計画の策定に向けて、現段階における諸施策の達成状況や諸課題を検証していただくとともに、社会情勢や国の施策を鑑みつつ、幅広い視点から貴審議会の意見を求めます。

以上でございます。それではここで石内市民局長から貴審議会へ諮問をさせていただきます。

**○石内局長** では、代読でお渡しさせていただきます。横浜市スポーツ審議会会長様。横浜市長林文子。横浜市スポーツ推進条例の規定に基づき、横浜市におけるスポーツ振興について、審議会の意見を求めます。どうぞよろしくお願いいたします。

**○山口会長** ただいま諮問を頂戴いたしました。ここで、石内局長は公務のご都合により退席となります。ありがとうございました。

(石内局長退出)

### (3) 審議スケジュール

**○山口会長** 続きまして、本横浜市スポーツ推進審議会の審議スケジュールにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

**○守屋課長** それではご説明をさせていただきます。資料1「第25期横浜市スポーツ推進審議会の審議スケジュール(案)について」をご覧ください。本日になりますが、第1回会議の審議内容は「横浜市のスポーツ振興について」ということで、先ほど諮問をさせて

いただきました。この後「スポーツ施設の現状について」ということを議題に上げておりますが、その前提として、ラグビーワールドカップ2019開催報告、令和元年度市民スポーツ意識調査、令和2年度予算についてご報告させていただきます。第2回会議につきましては、令和2年11月から12月で、今想定の議題といたしまして、高齢者・障害者スポーツの推進、トップスポーツとの連携・協働の推進を予定しています。第3回会議が令和3年2月から3月になりますが、想定議題としまして、子供の体力向上方策の推進、地域スポーツの振興を考えております。令和3年6月頃から国の次期スポーツ基本計画の策定に向けた審議会の議論が始まるかなと想定しておりまして、横浜市のスポーツ推進計画につきましては、国の基本計画を参酌して、地方の実情に応じて策定するということとされておりますので、国の審議結果を見ながら第4回会議を令和3年5月から6月に考えております。審議内容が「次期横浜市スポーツ推進計画に向けて」ということで、想定議題としまして、国の計画の方向性を参考にした課題の整理としております。第5回会議が令和3年11月頃で、次期横浜市スポーツ推進計画の骨子案について、ご意見を頂ければと考えております。その後、第6回会議が令和4年1月頃で、横浜市スポーツ推進計画（素案）について、第7回会議が令和4年5月ということで、令和4年度から始まります横浜市スポーツ推進計画についてご意見を頂き、答申を頂くということで今スケジュールを組んでおります。よろしくお願いいたします。

**○山口会長** ありがとうございます。ただいま事務局から説明がございましたが、何か委員の皆さんからご意見があればお願いいたします。現段階のスケジュールということで、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

#### (4) スポーツ施設の現状

**○山口会長** 続きまして、スポーツ施設の現状についてということで、事務局から説明をお願いいたします。

**○守屋課長** それでは、スポーツ施設の現状についてご報告やご説明をする前に、その関連の資料としまして3点ご説明をさせていただきます。1点目が関連資料1「ラグビーワールドカップ2019の効果」というものでございます。1、大会基本情報について。(1)大会開催実績、これは国内全部の実績です。ア、試合開催数は45試合、台風により3試合中止という状況です。イ、観客動員数は合計170万4443人となっております。ウ、ファンゾーンですが、12都市16会場で開催されまして、合計約113万7000人、過去最高の人数となっております。エ、優勝国は南アフリカです。(2)横浜での試合開催実績ですが、ア、試合開催数は合計で6試合、台風により1試合中止となっております。イ、観客動員数は合計40万1742人ということで、決勝戦につきましては、横浜国際総合競技場の最多入場数である7万103人となっております。

次に2、ファンゾーンについてでございます。(1)開催概要ですが、ア、開催場所は臨港パーク、イ、開催日数は13日間、ウ、来場者数は合計15万3700人となっております。

裏面の2ページをお開きください。3、経済波及効果についてです。(1)チケット販売につきましては、約184万枚を販売し、販売率が約99.3%と、過去最高の販売率を記録しております。(2)大会全体の経済波及効果でございますが、過去最大の経済効果ということで、6464億円の効果となっております。3ページをお開きください。(3)インバウンド効果です。下の棒グラフにございますとおり、横浜では他の開催都市と比較して、海外観光客、県外観戦客の実数、割合とも高く、インバウンド、国内観光の大きな契機となったと考えております。

下の4、ラグビースクール等への効果についてでございます。(1)神奈川県下一斉ラグビー体験会でございますが、神奈川ラグビーフットボール協会が毎年実施している体験会の参加者数は、ラグビーワールドカップ2019開催前の2019年春開催と比較しまして、開催後の2019年秋冬開催では、参加者数が約3.5倍に増加しております。4ページをご覧ください。(2)市内ラグビースクールでございます。ア、新規生徒数ですが、神奈川ラグビーフットボール協会に所属する市内4つのラグビースクールの新規生徒数の合計は、ラグビーワールドカップ2019開催前に比べて約4.5倍の増加となっております。イ、その他の効果、課題はアンケートの自由記載ということですが、体験会を通じて過去最高の来場者、新規入会者があったであるとか、生徒数が増えたこともあり、安全に練習できる場所の確保が課題であるというようなご意見を頂いております。

続きまして、関連資料2「令和元年度 横浜市民スポーツ意識調査」でございます。こちらは毎年実施しておりますインターネットによるアンケート調査になります。1の横浜市のスポーツ推進計画の基本目標についての集計結果でございます。(1)成人の週1回以上のスポーツ実施率ですが、計画の目標65%には9.2ポイント及ばない55.8%という結果となっております。(2)成人の週3回以上のスポーツ実施率です。こちらは目標30%に0.9ポイント及ばない29.1%となっております。2ページをお開きください。(3)障害者(成人)の週1回以上のスポーツ実施率です。目標40%に3.3ポイント及ばず36.7%となっております。(4)65歳以上の週1回以上のスポーツ実施率ですが、目標70%を4.8ポイント上回りまして、こちらは74.8%となっております。3ページをご覧ください。(5)スポーツボランティアを行ったことがある割合は、目標10%に3.9ポイント及ばず6.1%となっております。(6)トップアスリートが参加するスポーツ大会やプロスポーツを間近で観戦した割合は、目標50%に19.8ポイント及ばず30.2%となっております。

4ページをお開きください。こちらからはスポーツ観戦に関する集計結果をまとめております。(1)過去1年間に会場で観戦したプロスポーツやトップアスリートの試合でございますが、水色の折れ線グラフの野球・ソフトボールは14.3%、オレンジのマラソン(駅伝も含む)が7.6%、グレーのサッカー・フットサルが6.3%、赤のラグビーが4.1%

ということで、平成30年度の1.4%から2.7ポイント増加して、ラグビーが急増しているという状況でございます。5ページをご覧ください。(2) 今後会場で観戦したいプロスポーツ・トップアスリートの試合ということですが、こちらは今後観戦したいということで、ちょっと統計の取り方が平成30年度と令和元年度でそれ以前と変わっておりまして、1年間に観戦したものを除いて今後観戦したいトップスポーツという聞き方になっております。こちらは赤色のラグビーが13.4%で1位となっております、平成30年度、前年度に比べて7.2ポイントの増加となっております。

続きまして、関連資料3ということで、令和2年度の予算概要スポーツ振興費(当初予算)抜粋をつけております。こちらは抜粋ですので、5ページと下にあるところをご覧くださいただけですでしょうか。2の「スポーツで育む地域と暮らし」というページでございますが、施設に関係ある部分だけご紹介いたしますと、(3) ラグビーワールドカップレガシー事業が2800万円の予算となっております。こちらは前年度ゼロに対して2800万円の純増となっております。内容といたしましては、ラグビーワールドカップ2019の開催を契機としたさらなるスポーツ振興に向けて、子供たちへのラグビーの普及や、女子ラグビーの推進、トップレベルの試合の誘致等を行います。また、子供たちが芝生でラグビーの練習ができる場等を含め、様々な球技について調査を実施する等、市民スポーツの「する」「みる」「ささえる」を推し進めますという内容になっております。次の6ページをご覧ください。こちらも施設関係ですが、(8) 学校施設への夜間照明設置事業に700万円ということで、こちら前年度ゼロに対しての純増となっております。内容といたしましては、市内小中学校の校庭に夜間照明を設置し、夜間の校庭を開放することで、スポーツをする場を拡充し、地域でスポーツを気軽に親しむ機会を創出するという事で予算立てしております。参考までに、(11) は東京2020オリンピック・パラリンピック開催推進事業でございますが、こちらの当初予算は12億4185万円となっておりますが、オリンピックが1年延期したことに伴いまして、6月の時点で8億2000万円の減額補正をさせていただいております。

ここまでが関連資料でございますが、これからが本番になります。資料2の「横浜市のスポーツ施設の現状について」をご覧ください。1、横浜市のスポーツ施設の設置状況と他都市等との比較についてですが、横浜市のスポーツ施設の現状を分析するために、文部科学省が平成30年度に実施しました社会教育調査の結果に基づき、他都市等との比較を行いました。(1) 横浜市のスポーツ施設設置状況ですが、主な公立スポーツ施設の設置状況は次のとおりということで表を載せております。陸上競技場の4つを含めまして、一番下の合計で600施設ということになっております。次の2ページをご覧ください。(2) 政令指定都市との比較になります。アは政令指定都市の人口・面積・人口密度の比較を基本情報として載せております。横浜市につきましては、政令指定都市の中で人口は最大であるということが分かりますかと思えます。イは1万人当たりの施設数の比較ということです。

(ア) は先ほどの公立スポーツ施設の総数比較になりますが、横浜市は1万人に対して1.6施設になりまして、平均値であります2.82施設より下回っている状況でございます。

(イ) から公立スポーツ施設の種別ごとの比較も行っております。陸上競技場については平均が0.03施設のところ0.01という結果になっております。野球・ソフトボール場につきましても1万人当たり平均0.3施設のところ、横浜市は0.1施設となっております。4ページをご覧ください。競技場ですが、平均0.08施設のところ、0.03施設が横浜市です。多目的運動広場の平均0.29施設について横浜市は0.20施設、水泳プールは平均0.15施設に対して横浜市は0.13施設、体育館につきましては、平均0.20施設を上回りまして、横浜市は0.37施設という状況になっております。6ページは庭球場、テニスコートでございます。平均0.94に対して横浜市は0.42という状況でございます。(3) が県内他市町村との比較でございます。こちらは鎌倉市が作成したものでございまして、先ほどの社会教育調査の内容と若干異なりまして、神奈川県各市町村要覧を基につくったものでございます。こちらを見ていただきますと、人口10万人当たりのスポーツ施設については、県内の各市町村の中で最も低い水準が横浜市ということでございます。

7ページをご覧ください。2、スポーツ施設の抽選倍率についてですが、横浜市で入れております市民利用施設予約システムの対象施設の抽選倍率を調べています。横浜市のスポーツ施設の室場別に平均抽選倍率を比較したところ、平日につきましてはオレンジの棒グラフの4.2倍の体育室が一番高く、土日祝については水色の棒グラフの球技場が41.62倍で最も高いという状況になっております。

3のトップスポーツチームの状況についてでございます。(1) 政令指定都市を本拠地とするチーム数の比較をしております。こちらのチームにつきましては、棒グラフの下に注で書かせていただきましたが、日本野球機構のチーム及び日本トップリーグ連携機構の加盟リーグに参加しているチームから抽出してございまして、名古屋市が13チーム、大阪市が12チーム、横浜市が10チームという状況でございます。(2) がJリーグ・なでしこリーグ・ラグビートップリーグ等の施設利用状況ということで、主に球技場と呼ばれるものを使うところですが、各政令指定都市において1つの球技場を複数チームが利用している状況があります。特に横浜のニッパツ三ツ沢球技場は利用するチーム数が最も多く、5チームが利用していて、そのために利用調整が困難になっているという状況がうかがえます。別紙ということでA3の折り込みのものをつけております。そちらを見ていただきますと、政令指定都市で、5番目の横浜市のニッパツ三ツ沢球技場については先ほどの5つのチームが使っていて、ちょっと混み合っているなという状況が見られるかと思えます。

本体資料の8ページでございます。4、市民ニーズでございます。先ほどの市民スポーツ意識調査の内容ですが、市内のスポーツが盛んになるために必要だと思うことについて質問しましたら、こちらではスポーツ施設の整備が必要であると回答した人が最も多かったという結果が出ております。

資料の説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○山口会長 ありがとうございます。事務局からの説明は以上でございますので、委員の皆様からそれぞれご意見を頂戴していきたいと思っております。ご質問でもご意見でもご感想でも結構でございます。質疑応答の時間とさせていただきます。今回は大変恐縮でございますけれども、リモートでご出席の方を先にご指名させていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。それでは、大変恐れ入りますが、リモートでご出席の石黒委員から頂戴できればと思います。

○石黒委員 失礼いたします。これは施設のことに関する質疑応答ということでよろしいでしょうか。

○守屋課長 よろしくお祈りいたします。

○山口会長 基本的には全体の流れの中で何でも結構でございますということです。

○石黒委員 承知しました。ありがとうございます。そうしましたら、スポーツ施設の研究にも実際に携わっていたことがあるので、幾つか感想を述べさせていただければと思います。

今、最後にご紹介いただいた資料の中で、ほかの政令指定都市と比較すると人口当たりだとかなり少ないという結果が示されたかと思っております。市民のアンケートでも施設整備を求める声が大きいうことで、ある程度飽和状態にあるということもこの結果から見て取れるのではないかと感じました。一方で、広い意味でのアクセシビリティということを考えてときに、人口当たりの比較だけではないと思っております。公共施設の数も大事ですけれども、スポーツ庁の会議の中でも利用者が必要としている情報が十分に伝わっていない、その結果使いたい人が使えていないという状況があるのではないかという意見も出ていられると思われまます。国全体で4万7000か所ぐらい、そのうち600か所ということで、これだけの数をマネジメントするのは非常に難しいことだと思っておりますが、やはり利用者が必要としている情報を伝えるための広報だったり、あるいはどうしても予算的に後回しにされがちな部分ですけれども、システム整備といったところにまとめて投資することで、より施設の活用ということができていくのではないかと感じました。

もう一点、先ほどコロナ禍の中でどうしていくかというお話も上がりましたが、長崎の民間施設、スタジアムの新設の準備が今進んでいる中で、この状況を受けて、早速観客席の間を広げたりだとか、そのような取組も始まっていると聞いております。これは見るスポーツ施設の事例ですけれども、新設に向けてももちろんそういう検討は必要だと思いますし、あるいは今ある施設の中でも、施設に来なくてもできるサービスの在り方についても今後検討していく必要があるのではないかと感じました。以上でございます。

○山口会長 ありがとうございます。事務局、何かコメントされますか。よろしいですか。貴重なご意見をありがとうございます。

それでは続きまして、小熊委員、お願いいたします。

○**小熊委員** 全体を通してということで、お示しくださった資料の中から昨年度のラグビーの盛り上がり等、非常によく分かりました。今後の私どもが行うべきこととして、スポーツ推進計画の策定に関わることが出てくるということを認識した上で、意識調査の結果を拝見しまして、これが令和1年度のものということで、どういう方にどういうニーズがあるのか、実際に今スポーツをやっている方々のニーズなのか、あるいはやっていない方にどういうニーズがあるのかというようなところがもう少し細かく分かるのかなと思いました。以上でございます。

○**山口会長** ありがとうございます。アンケートの仕方についてご説明されますか。

○**小熊委員** ありがとうございます。お願いします。

○**守屋課長** 事務局でございます。アンケートにつきましては、インターネットを使ったアンケート調査でございます。小熊委員ご指摘のクロス集計等々は、今はしていない状況です。まず大前提として、スポーツをしましたか、していませんかというご質問があり、あとはスポーツ施設に望むこととか、いろいろなご質問をされており、初めのスポーツをした・しないからクロス集計は取れますので、それは分析させていただきたいと考えております。

○**小熊委員** ありがとうございます。また詳しく教えていただければと思います。

○**山口会長** ありがとうございます。それでは続きまして、大日方委員にお願いいたします。

○**大日方委員** この資料を頂いてさっと見て思ったことというのが、スポーツ施設をかなり整備していきたいとか、いくべきだという方向で考えていらっしゃるのかなというように、アンケート調査をこのような形で出していただいたので、余計そう見えるのかもしれない。施設が足りないということで、増やそうという方向にある種行きがちかなと思いますけれども、一方で今のコロナ禍の状況を考えますと、施設を果たして整備していくということ、あるいは先ほども席数そのものが変わっていくのではないかなというような根本的な部分と、今のタイミング、計画を立てていくところが非常に難しい状況だなど思っています。感想めいた話になってしまいますけれども、このタイミングで計画を立てることの難しさを私たちはしっかり認識しなければいけないのではないかなということです。先ほどのスケジュール、進め方でもさっと前回どおりというような形でいってしまったのですが、これは基本的に10年間使っていくことになるかと思えます。5年ですかね、10年ですかね。これだけ社会状況が変わっていくこのタイミングでスポーツ計画を立てるにはどういったことが必要なのか、短期、なかなか中長期は見通せないと思いますが、どう変わっていくのかということ少し手前で議論したほうが良いのではないかと、そのようにも感じています。恐らく市民の方のスポーツに対するニーズ、あるいは行政が行うスポーツサービスといったものも変わっていつているさなかなのだろうと思っております。特に例えばアメリカなんかですと、オンラインでのトレーニングとか、そういう形の



ものの利用率がかなり高まっているというようなことも聞きますけれども、ここを全て民間任せにしておいていいのか。行政がそういったサービスをする必要性が今のところ、これまでは全く考えられていなかったわけですが、対面ではない方法というものをどこまでやるべきなのか、やれるのか、そういったことも少し考えていかざるを得ない、そういう難しい状況なのかなと感じております。取りあえず以上ということで、お願いします。

○山口会長 ありがとうございます。それでは続きまして、佐々木委員、よろしくお願いいたします。

○佐々木委員 私も感想というような形になってしまいますが、やはり数で考えて、人口が多いから数も増やすというようなことになってしまわないように、ある中でどうやって質を高めて、使い方というか、そういうところを考えていけるかということも大事なことかなと思います。あと、8ページの市民ニーズというところで、市民としてはやはり盛んになるためにはスポーツ施設の整備が必要だという声はもちろんですけれども、その隣に学校体育施設の開放・整備があります。そんなに高い値ではありませんが、セキュリティーとかで今の世の中は学校をほいほい開放できないと思いますけれども、そういうところも含めて、敷地としてはあるところをどうやって使っていくかということも工夫していく必要があるのではないかと思います。子供たちのことを考えると、お示しいただいた数値の中でも高齢者は割とスポーツを楽しむというような、それぞれのやり方が個々でもしかすると分かってきているのかもしれませんが、子供たちにはそういう流れをつくってあげることが必要だと思うので、その辺でやりたくてもやれないことがないような施設であったり中身であったりというところを大人が考えていくことが必要かなと、感想ですが、思いました。以上です。

○山口会長 ありがとうございます。それでは続きまして、萩委員、よろしくお願いいたします。

○萩委員 私は今回のスポーツ基本計画に関わったこともありまして、次のスポーツ基本計画はどうなるのかなと大変気になるところであります。横浜市も次期スポーツ基本計画を踏まえてということですので、これはまたコロナ禍でかなりドラスチックに変えざるを得ないだろうと思います。そこにどう歩調を合わせていくのかというのが、時間的には非常に厳しい計画だなと思いました。それと、やはりコロナ禍の影響は全然違うコンセプトでいかないといけないのではないかと思います。経済的にもこれからこれがどのぐらい長引くか分かりませんが、相当痛手があると思います。施設を考えると、何か大きな施設を造るとか、何かハード的な設備を考えるというよりは、むしろもうちょっとあるものをどう使っていくのかとか、実際にある施設がどれぐらい稼働しているのかという分析とか、あるいは最後の市民ニーズのところで、スポーツ施設の整備は何かを造れということではなくて、恐らくあるところをどう整備してほしいかという、もうちょっと細かいところがあるかと思います。それこそもう少し障害者の方が使いやすいとか、バ

リアフリーになるとか、女性や子供が使いやすい、高齢者が使いやすい、そういうところも踏まえて考えていく必要があるのかなと思いました。

あともう一つは、オンライン、リモートワークが増えてくると、先ほど見せていただいた、平日はほとんど倍率がないけれども土日に非常によく使っているというあたりも、もしかしたら平日のほうが使いやすいですよということになれば、平日に使えるような働き方改革なども出てくるかもしれないですね。そういうところを予測しながら今までとは違う視点で話し合えるといいかなと思います。そういう意味では、今リモートで出ている方は全部女性で、これはほかの審議会にはない、こういったつくりができてきているというのは新たな一歩を踏めるような気がいたしますので、皆さんで英知を出して、いい基本計画ができたらいいなと思っております。以上です。

○山口会長 ありがとうございます。それでは宮嶋副会長、お願いいたします。

○宮嶋委員 ありがとうございます。今先生がおっしゃったように、コロナによってこの調査が全く意味をなさないくらいドラスチックに変わった部分があると思います。重要なことの1つとしては、身体活動量が圧倒的に少なくなっているということです。今まで普通に通勤や通学で何げなく歩いていたものが、それで6000歩、7000歩歩いていた人が家の中でずっとステイホームという形になった段階で、250歩とか300歩とか、そんな方もいらっしゃると思います。反対に言えば、これはものすごく我々スポーツや体育に関係している人にとってはチャンスだと思います。何かというと、一般の方が身体を動かすことの重要性というものを感じ始めたということです。このままだとまずいよねという気持ちを皆さんが今お持ちになっているのだと思います。ですから、その気持ちをどう押し上げるかというのが市の施策の中に出てくるべきだろうと私は思っております。

それと、もう一つ言わなければいけないのは、インドアとアウトドアの場合に、施設で様々なインドアの体育館などがありましたけれども、やはりどうしてもこれからはアウトドアのスポーツのほうが奨励されるような環境になっていくと思います。コロナがうつらないためにどうするかということを考えると、体を動かすのだったらインドアを避けてアウトドアに行こうかなという方も多くなると思うので、そこも視野に入れていただきたいなと思っております。ですから、ここにウォーキングであるとかサイクリングの施設への案内とか書いてありましたけれども、自然の中でできるスポーツに関して予算を少し割いていただくような方向性が必要かなと感じています。

もう一つ、大日方さんから、米国ではオンラインで身体活動をするような環境が整ってきているということでしたけれども、日本の場合は学習ですら、小学校の場合に私学ですと100%オンライン授業ができていて一方、公立だとわずか5%しかできていない。これはどういうことかということ、貧困ということもあるかもしれませんが、Wi-Fiの設備が家族の中にある、モニターがない、そういうことで格差が生まれているわけです。こういったことが身体活動格差にもつながりかねないわけです。それを補填するために何か

アイデアが出せないのか。例えば、何かモニターみたいなもの、情報発信は市がやってもいいですし、ありものの中で民間の人たちがやっているものをキャッチするのもいいと思いますけれども、何かそういうための仕組みづくりがいろいろなところでできないのかなと思っております。いわゆる身体活動弱者みたいな人たちが現れてくるのがこれからの社会ではないかと思うので、そういうところに手が差し伸べられるような方向性も少し考えていただければと思っております。以上です。

○山口会長 貴重なご意見をありがとうございます。それでは、ゼッターランド委員、お願いいたします。

○ゼッターランド委員 ありがとうございます。よろしくをお願いいたします。今期から初めてこちらの委員会に参加させていただくということで、横浜市さんにつきまして様々なデータとかを見せていただきまして、昨年までラグビーワールドカップを含め、ところどころで横浜市さんのスポーツ関連とはいろいろご縁を頂いて活動もさせていただいたのですが、改めてコロナという非常に難しい状況の中で、どうやって市民の皆様に身体活動を行ってもらい、そして少しでも満足いく形のスポーツ活動ができるかということを考えていくことの難しさと大切さを改めて資料を拝見しながら感じておりました。それで、これまで委員の先生方からのご意見も出た中で2点、1つは施設で、1つはスポーツに携わる機会を、ただでさえ減っている中で携わり方ですとか、携わるチャンスを少しでも確保していくということが必要なのかなと感じました。

1つはやはり昨年のラグビーワールドカップで、大変すばらしい取組で、成功裏に終わったということですが、子供たちがスポーツに携わろうとか、あるいは市民の方がもっとこのスポーツを見てみたいと思うきっかけになったのは、もちろん試合結果もそうだったのですが、プロのトップの選手が取り組む姿勢とか、そういったものも大きな影響があったのではないかと思います。その機運をこのまま今年もという望みはとても大きかったと思いますが、こういうような状況になった中で、プロスポーツ、トップスポーツの選手たちもどのようにしたら裾野を広げていくことができるかという、単に結果を出して皆さんにそれを見てもらうということをスポーツに携わるきっかけとしてもらうのではなくて、自分たちがどのようにしてリーチアウトしたらより多くの人たちに携わってもらえるかということを考える大きなきっかけだったと思います。ですので、機運の醸成というところまではなかなか難しいと思いますが、せつかく1つのきっかけがありましたので、例えばトップスポーツの選手たちも今活動があまりできない、ようやく大会、試合とかが再開されつつある中で、市民の皆さんとの結びつきというのですかね。先ほど大日方委員からもお話があったのですが、身体活動が少なくなってきた中で、インターネットとかの環境差はあったとしても、そういう中で例えばプロの選手、トップの選手がこの動けない状況の中でもどうやって身体活動を維持する形をつくっているかということに興味を持っている方たちも多いと思います。私もアメリカのオリンピックとか、そういった方たちの

映像とかを見るのですが、かなり積極的にそういったものを発信していつているというのがありますので、そこで何か行政と、例えばプロスポーツ、トップスポーツと連携して、少しでもそういった動きというものを継続していくような発信の仕方ができたらいいのではないかと思います。横浜市さんはベ이스ターズさんとか、もちろん野球だけではないのですが、そういった積極的な活動をされているというお話も伺っていますので、さらに連携強化して、市民の皆さんにそういったものが届くような広報というのですか、それができるといいのかなと感じておりました。

それから、施設に関してですけれども、先ほど来からあるものをどううまく使っていかということが1つポイントにあったかと思えます。やはり市民の皆さんのアクセスということでいきますと、状況、環境が整ったとてもいい施設にアクセスできるかという、特に横浜市さんはとても広いので、必ずしもそうではないと思えます。私もいろいろな場所に行かせていただいたのですが、本当にアクセスが大変という中でも一生懸命現場にいらしている方もすごく多かったので、そういったところでアクセスできる場所がうまく使えるようになることも1つの方向性だと感じています。先ほど学校を一般的に開放するのがなかなか難しいというお話もありました。今勤務している日女体でも総合型のクラブを持っているのですが、学内で学生たちが施設を使えない状況の中で、外部からいらっしゃる方、あるいは外部の指導者の方にどれだけ使わせていいかということも、内部との調整が結構難しいこともありまして、現状はご遠慮いただいています。本当に小さなエリアでの調整も難しいのですが、何とかそのところをうまく既存の施設が稼働できるような形で、行政からの連携にも期待したいなというところがあります。すみません、長くなりまして失礼いたしました。以上です。

**○山口会長** ありがとうございます。後ほどまたご発言の機会がありましたらよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、こちらの会場の委員の皆さんからのご発言を頂きたいと存じます。石渡委員からお願いします。

**○石渡委員** 中学校の代表として今日はお話をさせていただこうと思えます。3月から5月終わりまで臨時休校ということで、6月1日から子供たちは学校に登校してまいりました。やはり体力面で非常に低下していたなど。課題等も出していて、近くの公園で少し散歩をしたりジョギングしたりしようねという課題も出されてはいたのですが、やはり自分でそれに取り組むというのがなかなか中学生のレベルでもできなかったなどという様相を、登校してきている子供たちの様子から感じました。また、学校が再開して今2か月がたとうとしているところで、部活動も始まって1か月たっていますけれども、まだまだ練習時間の制限等もあり、体力が戻っているなどという様相にはまだ戻っていないという感じがしております。そんな中、やはり子供たちの特性を考えると、仲間と顔を合わせながら一緒に運動する機会、体育の授業や休み時間に一緒に遊ぶとかということを考えても、自分で

やるというよりは仲間と一緒に活動することの大切さを、今回のコロナの臨時休校に当たりまして痛切に感じておりましたので、お話をさせていただきました。

あともう一点、スポーツ施設の現状のご提示を頂いたので。実は2年前の神奈川県の中学生の総合体育大会は横浜地区の開催でして、私たちも横浜のブロックの中で7月27日から約1週間で総体の会場を受けなければいけないというようなことがありました。神奈川県下8ブロックに分かれている中で、8年に1回回ってくる総体ではあるのですが、屋外競技に関してはスポーツ施設が充実しております、ほぼ横浜市内でできましたけれども、体育館を使った屋内施設の種目はなかなか、最終日は大勢の保護者にも見てもらいながら試合を行わせる施設が横浜ではほとんど取ることができず、2年前もほとんど屋内競技に関しましては他都市をお借りしたというような実情がございます。この大きな違いは、市町村立でそれぞれの地区は体育館を持っている関係で、観客席等が整備されている体育館が横浜以外のブロックは非常に多かったなど。横浜もその施設をお借りしながら大会を運営させていただいたというような件がありましたので、お話をさせていただきます。ただ今後、やはり夏の大会をやるには、どうしても空調施設が充実していないとできないなということで、学校にも防災の観点から体育館に空調をとということで話題には出てまいりましたが、これを早急に進めて、6月ぐらいから9月ぐらいまで、安全に子供が学校の体育館で運動するという空間をぜひ整備していただけたらいいなと思っております。また、屋外施設では、先ほどナイター施設の話題が資料に出ておりましたけれども、ぜひそういったものも増えてく中で、涼しい環境の中でスポーツができる空間が増えていくとありがたいなと感じましたので、お話しさせていただきました。すいません、長くなりました。

○山口会長 ありがとうございます。それでは小宮委員、お願いいたします。

○小宮委員 小学校の子供たちの現状と、小学校の施設の開放事業についてお話しさせていただければと思います。横浜では6月から分散登校という形で子供たちが学校へ登校できるようになってきたわけですがけれども、今石渡先生からもお話がありましたが、やはり3月からでしたから、3か月間うちにいたということは、子供たちにとっては心の面でも体の面でも非常に厳しい状況だったなと思っております。子供たちは6月から来ましたがけれども、やはり体力が心配とか、学校にちゃんと通う体力が戻っているか心配だということをお子たち自身も思っていましたし、保護者の方たちもそういうことをとても心配していました。学校が始まったのですが、時間数を確保しなければいけないのもありますけれども、カリキュラムを考えていかなければいけなくなりました。夏にやるべき水泳の学習は全てできなくなりましたし、子供たちが密になるであろうボール運動ですとか、集まって押し合いをするような器械運動もなるべく後のほうにして、体づくりとか陸上とか、個人でやれて距離が保てるような種目、領域を6月、7月の中でスタートするような形で行っていますが、今後どうなっていくのかなということは非常に不安です。それから、学校生活の中で子供たちが大きな声で笑ったり歌ったり、そういう学校生活ができていませんの

で、子供たちの抱えているストレス、我慢している状況というのは夏休み明けも続いていくのかなと思うと、やはり心配なところがあります。学校の生活の中でそういうものがなかなか厳しい状況ですので、どこかそういう受け皿になるような社会体育の場面ですとか、そういうところも学校体育以外に必要なのかなということを感じております。それから、私が勤務している学校は体育館と校庭を土曜日、日曜日、放課後に開放しておりましたけれども、これもコロナの影響でずっと開放できずにおりました。7月末からようやく始まってきましたけれども、そういった意味でもなかなか厳しい状況が学校現場では続いているというところですよ。よろしくお祈りいたします。以上です。

**○山口会長** ありがとうございます。それでは後藤委員、お願いいたします。

**○後藤委員** 今年度になってからの現況を申し上げますと、私どももほとんど何も活動していない状態です。市の大きなイベントも全部中止、区でも中止、地区でも中止というような状態で、我々は今のところ名前だけで何もしていない状態です。近所の公園を見ましても、大体高齢者の方がグランドゴルフをやったり、いろいろ遊んでいるわけですがけれども、最近コロナ禍になってからはあまりそういう方も見られなくて、大きな公園でジョギングしたり散歩している人は最近、6月ぐらいからですかね、少し見られるようになりました。その状態が最近まで来て、さっき小宮先生がおっしゃった学校開放ですがけれども、7月末からグラウンド、8月1日から体育館もオーケーということで、私はクラブにも関係しているもので、ようやく開放していただいて、この間の1日の土曜日にうちのチームもやりました。ソフトボールをやっているのですが、25人ぐらい集まって、大変喜んでいただいて、これがずっと続いてくれればいいのですけれども、こういう状況でまた分からなくなるかなということも心配しています。それに関連しまして、場所の問題です。先ほど抽選がかなり横浜市は厳しい状態で、なかなか当たらないということがありまして、学校開放は事前に決めるので大体みんなすっと収まりますが、地区センターとかいろいろなところは申し込んでもすんなり入らなくて、抽選が外れるというのがほとんどです。そういった状態で、実際に活発に始まった場合、やはり場所の問題というのはずっと前から問題になっているわけですがけれども、なかなか横浜市は人口の割に施設が少ない。山北とか清川村とかと比較しても横浜市はかなり低い数字になっているということで、人口が多いからその辺のところはある程度仕方がないのかなという感じもしますが、今後、これから子供たち、またその先の子供たち、ずっと未来を考えれば、もっと簡単に場所が取れてスポーツができるような体制になってくれればいいなと私は考えています。以上です。

**○山口会長** ありがとうございます。それでは平野委員、お願いします。

**○平野委員** 事務局からの説明に対して2つ質問をさせていただきたいと思っております。1つは、ラグビーワールドカップのときのスクールへの生徒の加入率が4.5倍ということですが、これは生徒と書いてあるので中学生という意味でしょうか。これが1つ目です。いかがでしょうか。

- 守屋課長 小学生になります。
- 平野委員 児童生徒？ 児童？
- 守屋課長 児童です。小学生です。
- 平野委員 ありがとうございます。それと2つ目は、体育館の1万人当たりの施設数が高いのは何か理由があるのでしょうか。
- 守屋課長 こちらは私どもも不思議なところがあったのですが、社会教育調査に求められる施設を横浜市としてはピックアップしています。例えば地区センターについています体育室。地区センターは81あるのですが、そこに体育室というものがあまして、そこも全部体育館ということでカウントしてお出ししています。よその都市と同じ基準でやっていると思いますが、よその都市が何を出しているのか見えないものですから、こういう結果になっております。
- 平野委員 ありがとうございます。プラスでコメントをさせてもらいたいと思います。1つは推進計画の中間見直しのところで、子供の体力向上に対する取組がたくさん出されていますけれども、割と総花的でどこでもやっているようなものばかりだと思います。やはりこれは横浜市らしいとか面白いというような取組が何か出されたらいいのではないかと思います。そのためには、やはり子供の声を吸い上げる。単に聞くだけだと、子供だからなかなかうまくできないと思いますので、そのところを仲介する仕組みをつくって、子供の声を吸い上げて、子供が自分たちも参加しているんだみたいな形の取組がなされればいいのではないかなと思います。以上です。
- 山口会長 ありがとうございます。それぞれ委員の皆さんから貴重なご意見を頂きましてありがとうございます。横浜市らしい取組は、特に現状の中でありますか。
- 守屋課長 子供の体力の関係では、目標は10年間の形で取組を書かさせていただいておりますので、次期計画には何か横浜らしい取組があればいいかなと思いますが、現状では教育委員会で体力向上の取組として、学校ごとに1校1実践運動という形で目標を掲げて取り組んでおります。そういう意味では、それぞれの学校に応じた取組をしているというのが特色といえれば特色かなという気がしております。
- 山口会長 ありがとうございます。それでは、全ての委員の皆様からご発言を頂きましたけれども、それぞれのご発言を聞いていただいたり、そんな状況の中でもう一度ご発言をされたい方がいらっしゃいましたら頂戴したいと思います。いかがでしょうか。
- 佐々木委員 よろしいでしょうか。佐々木です。横浜らしいということとか、あと子供というキーワードが出ていましたけれども、前にも言ったかもしれませんが、子供の体力向上、体力が上がるということが目標ではなくて、例えばほかではやっていないいろいろなことを横浜の子供たちはやるんだとか、新たなスポーツだとか、こういう取組方とか考え方とかを子供たちはしているというようなことが出てくるとか、その結果いろいろなことをやって、そんなに全国レベルですごく体力がついたかどうか、それは別として

も、活発に動くような子供たちが増えているとか、そういうような捉え方もあるかなと思っています。そんなことも1つの特徴として出せていたらいいのかなと。今ちょっと出たご意見に関してですけれども、そのように思っております。以上です。

○山口会長 ありがとうございます。横浜市は横浜市歌を全国で一番歌っている市ではないと言われていまして、小学校の研究会で体育祭のときに横浜市歌をベースにしたダンスをやられていますよね。あと、縄跳びでしたか。ですから、ある意味横浜らしさといえればそういったこともあるのかなと。今の発言で思いました。すみません、勝手にコメントさせていただきました。

ほかにございますか。それでは、今までの委員の皆さんのご発言に対して、事務局から何かコメントされますか。よろしいですか。また議事録等々を頂いた上で。

## 7 その他

○山口会長 それでは、今日の予定された事項は終了ということになりますが、委員の皆様から何かございますか。小熊さん、どうぞ。

○小熊委員 今日資料を1つ配付させていただいて、今出してくださっております。今日の議論にもかなり関係することなのかなと思いつつ、私たちの中でも非常に問題意識が高く、もともと2月29日にオンサイトで行うはずだった、スポーツとか身体活動を少し長期的にSDGsとかとも結びつけて考えていこうというシンポジウムだったのですが、コロナ禍で延期になりまして、今回8月18日16時からウェビナーの形で実施できることが決まりました。WHOが2018年に、身体活動に関する世界行動計画といって、2030年までに身体不活動を15%減らそうということを大きく掲げて出している行動計画がありまして、その話も含め、シンポジウムを行います。このコロナ禍で15%増やすどころかどんどん減っているような状況で、私たちも今の状況で何をすべきかということを真剣に考える必要があるということで、シンポジストの先生の話の後、少しフリーで話せるような時間も取っております。もし関心を持っていただければ、ぜひご参加いただければと思います。お時間を頂いてありがとうございました。ちょっと細かいので、お手元の資料をまたご覧いただければと思います。

○山口会長 ありがとうございます。委員の皆さん、ほかにございますか。ありがとうございます。それでは、事務局からよろしく願いいたします。

○守屋課長 事務局からのご連絡事項になります。次回の第2回会議につきましては、先ほどのスケジュールにございましたとおり、11月から12月頃を予定させていただいております。後日、皆様に日程調整のご連絡をさせていただきますので、その節はよろしく願いいたします。以上でございます。



## 8 スポーツ統括室長あいさつ

○山口会長 ありがとうございます。それでは最後に、西山スポーツ統括室長からご挨拶をお願いいたします。

○西山室長 スポーツ統括室長の西山でございます。小さく映っていると思います。大変いつもお世話になってありがとうございます。25期横浜市スポーツ推進審議会にリモート、そしてこの武道館にご出席いただき、本当にありがとうございます。これから2年間ということになりまして、その中でスポーツ推進計画も作成していきたいと思いますので、どうかいろいろなご意見をまた今日のように頂ければと思います。

本日もコロナ禍の体力低下ということを小学校、中学校からお話しいただいたと同時に、宮嶋先生から身体活動弱者ですか、世の中の方々は外出をしないからそういう状況になっているというようなことも我々が真剣に考えて、行政として取り組まなければいけないのだなと感じました。それと我々は、今日はスポーツ施設について資料をお示しさせていただいたわけですが、あるものをどう使っていくのか、より工夫してニーズを踏まえて使う方法みたいなこともおっしゃるとおりだなと思いました。中学校、小学校の夜間照明についても、先ほど予算で説明させていただいたとおり新たに予算をつけましたが、他都市では、広島などは非常に多くの小中学校でオープンしているというようなお話も聞いています。こういったことが都市部の横浜でどう進められるかみたいなことも、500校ある小学校、中学校とどう一緒にご協力してやれるかみたいなことも11月までにもう一度我々も研究して、次のときに資料でお出しできるかもしれませんので、ちょっと期間が空きますが、我々はその間研究をして、またいろいろなご意見を頂ければと思っております。

今回会場とした武道館ですが、23期のスポーツ推進審議会で、メインアリーナ、サブアリーナ、国際大会ができる体育館を整備したほうがいいこと、それとオリンピックを狙う9000席のものではなくて、地方としてしっかりやれる体育館の規模はどうかというようなご議論を頂きまして、分科会も今の山口会長を中心につくっていただき、それが今年オープンすることになりました。当時から見ますと10年近く前からご議論いただいたものを形にさせていただいたということで、大変感謝しております。また、コロナ禍ではありますが、スポーツの火を消すなというようなお話もございますので、5年後、10年後に向けて、コロナが解決される時であっても横浜はどうすべきかというようなことも我々はやはり今行政として考えていかなければいけなく、市民の方にもスポーツ推進計画案として提示する必要があるかなと思っております。今頂いたコロナ禍の問題と、それでもスポーツ文化としてしっかりやり続けることが大事だというようなことを2つ、具現化できるようなことを提案し、先ほど課長が申しましたように、オリンピックの予算は8億円、9億円をお返しいたしました。これは現状では当たり前のことかもしれません。ですが、時代が変わってきたときにしっかり準備しておくということも大事かなと思います。昨年度の横浜

市の計画からスポーツ都市横浜と。他都市でもスポーツ都市何々というのはよく言っているのですが、改めてスポーツ都市横浜というのを打ち出させていただきました。特に私の部署はスポーツ振興部なので、朝から晩までスポーツ振興のことを考えております。この不透明な状況は続くかと思いますが、先生方から忌憚のないご意見を頂いて、次期計画、横浜としてしっかり市民の方々に支持されるスポーツ振興を進めたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。すみません、話が長くなって申し訳ありません。今後もよろしく願いいたします。

## 9 閉会

○守屋課長 ありがとうございます。それでは、こちらで審議会を閉めさせていただきますと思います。会場の皆様、リモートの皆様、ありがとうございました。